



運動会



文化祭 3年生クラス合唱

鹿児島大学教育学部附属中学校PTA新聞 第152号

雄峰

編集・発行 PTA広報部
鹿児島市郡元一丁目20番35号
平成30年12月18日

1月～3月の主な予定

- ・後期後半開始 1月8日
- ・学年学級PTA 2月19日～21日
- ・卒業式 3月13日
- ・修了式 3月25日
- ・辞任式 3月26日



英語キャンペーン

九月の早朝、「震度7」という地震速報に飛び起きた。両親が北海道を旅行していたからだ。ほどなくして連絡があり、震度7の地点に昨日まで滞在していたが今は安全な場所にいるとのこと。「安心した」▼今年には様々な災害が発生した年だった。今も多くの方々が仮設住宅等での生活を余儀なくされていることを思うと心が痛む。大きな災害はいつどこで起こるのか。鹿児島も例外ではない▼十一月、附属中では予告なしの避難訓練を清掃時間に実施した。それぞれの場所で教師の指示がない中、安全に行動できるかを想定したものである。神妙な面持ちですばやく避難する附中生の姿はとて心強かった▼「いざとなるとマニュアルなどあまり役に立ちません。ノウハウと経験をもっている人の助けが一番です」。新潟県中越地震を陣頭指揮した元知事の泉田裕彦さんの言葉である。日本という災害大国に暮らす以上、常に注意を怠らないように備えたい。

静思 「備える」

教頭 久徳 晋也

第68回 2018.9.9

運動会

熱き思いで共に起こそう
新たなる風



一人一人が真剣に取り組み、熱い思いが伝わる白熱した運動会でした。
結果は競技の部“黄組優勝”応援の部“赤組優勝”でした。

赤組



青組



運動会を終えて

体育委員長 隈崎 雄登

「新たなる風を起こす」このことを目標に、第六十八回運動会を全員で成功させることができました。今年は、雨が予想された中での開催でしたが、全員の思いが届き、閉会のその瞬間まで中断することはありませんでした。応援団、係、選手など生徒一人一人が最善を尽くし、行進や競技、応援など様々な場面で風が起きました。運動会で得た経験、起こした風を次へとつなげたいです。

白組



緑組



黄組





第58回 2018.10.16

文化祭

仲間と共に紡いだ糸で美しい模様を織りなすように、理想の未来に向かって練習を重ね、切磋琢磨し、絆を深めた感動的な文化祭となりました。

「結」 仲間と紡ぐこの瞬間 共に織りなす煌めく未来



2年合唱 『いざ立て戦人よ』 『君が君に歌う歌』

文化祭を終えて
 実行委員長 横山真由凛
 三年間の文化祭を終えて、後輩に伝えたいことがあるとしたらそれは、「全力で取り組むこと」だと思います。文化祭までは、仲間とぶつかったり、時には先生方に叱られたりと、必ずしも楽しいことばかりではありません。しかし、困難に全力で向き合い、よいものをつくるうとする姿勢が、当日何か大きなものへと変わります。後輩の皆さん、これからの文化祭をよろしくお祈いします。



3年クラス合唱





校内球技大会

7月10日



3年生 職場体験学習

55か所の様々な事業所に御協力いただきました。生徒たちは「社会の一員」という体験を通し、多くのことを学んだようです。

10月30日～10月31日



文具のしんぶく



ぶく福



大学生協



MBC南日本放送



たけした動物病院



南日本リビング新聞



平川動物公園



寿庵



ルンビニ保育園



サンキュー



今村総合病院



県立図書館



鹿児島市交通局



光愛保育園



錦ヶ丘幼稚園

2年生 修学旅行

百花繚乱

一人一人が思いを
発信し 創りあげる旅



10月30日~11月2日

1日目 奈良・東大寺・興福寺・京都



修学旅行を振り返って 実行委員長 小松 青空

私たちはこの修学旅行で普段学ぶことができない素晴らしい日本の伝統や本物に触れ、歴史の深さを学ぶことができました。今回見つけた課題を今後の学校生活に生かし、後輩のお手本になれるように一日一日を大切にしていきたいです。

2日目 京都自主研修



3日目 京都・大阪・神戸



4日目 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン



1年生 集団宿泊学習

180人の輝くチャレンジ
つなげよう5色の輪



10月31日~11月2日

1日目 体験活動・野外炊飯



2日目 横岳登山



3日目 キャリア教育講話



仲間と過ごして 実行委員長 宇都 敦士

宿泊学習では、一生に一度しかない三日間を通じて、これまでにない成長ができた。特に登山は印象に残っている。困難を励まし合い、声をかけ合い乗り越えたことで、仲間との絆が深まり強い感動を覚えた。支えていただいた方に感謝したい。

PTA研修会 第9回全国大会

平成30年9月28, 29日 ハイアットリージェンシー東京

「子どもたちとこの国の未来のために～今、求められる附属の「改革」と「周知」～」のスローガンのもと、鈴木大地氏や茂木健一郎氏など著名人の講演、分科会でのグループディスカッションが行われました。情報交換会では全国附属PTAとの交流が図られ、共通の問題を認識し様々な事例や取組を今後繋ぐ学びの多い研修でした。詳しくは次号ZENFUREN(附属だより)をご覧ください。



第41回 九附連親睦球技大会大分大会

親睦交流会 平成30年7月15日 ホテル日航大分

親睦球技大会 平成30年7月16日 ベッパアリーナ

「温泉は熱い!バレーも熱い!附属は熱い!!大分大会」
打倒 鹿児島チームと囁かれる中、せごどんの地の勢いを借りていざ出陣!対戦した大分小と福岡中には、楽しく親睦を図りながらも勝利し、リーグ優勝を飾りました。また、各学校園混合交流戦も行われ、他県の方々と絆を深める有意義な大会となりました。応援、御協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



PTA NEWS

一階購買部に、カラフルな附中オリジナルファイルが飾られています。鳥と木のかわいらしいイラストつきです。自分の好みの色のファイルで書類も心も整理してみませんか?



PTA NEWS

十月二十七、二十八日 第六十三回日本PTA九州ブロック研究大会鹿児島大会が行われました。大会スローガン「明治維新百五十年語りもんそ鹿児島で」みんなど成長していくPTA活動」のもと二日間多くを学びPTA活動だけでなく家庭でも取り組みたい内容ばかりでした。



保健部

年間テーマ

家族で取り組む『附中生活SSO』

～食事・睡眠・アウトメディアの取組～

鹿児島市PTA連合会保健体育部担当者研修会

H30.11.9 (金)

鹿児島市PTA連合会保健体育部担当研修会が開催されました。

松田鍼灸・接骨院院長松田左平先生より「健康は正しい姿勢から～姿勢教育の義務化を目指して思い～」と題した講話を拝聴しました。

【悪い姿勢が引き起こす健康への影響】

- ストレートネックにより肩の痛み
- 肩甲骨の外転・膝関節の屈曲等
- 横隔膜の緊張→動きが悪くなり酸素量が低下→脳への酸素量が低下→学力の低下

【正しい姿勢のメリット】

- 運動能力の向上・学力の向上・猫背改善・肩こり腰痛の改善・若返り・ダイエット等

＊サービカルアーチ

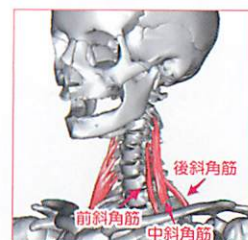
1. 腰に手を当てる
2. 肩を持ち上げる
3. 肩甲骨を後ろに寄せる
4. 顎を前に突き出す
5. 天井を見る
6. 胸を張ったまま耳下腺を指先で押さえる
7. 頭のてっぺんが天井に引っ張られるようなつもりで顎を元の位置に戻す

＊横隔膜ストレッチ

1. 足を肩幅に開く
2. 息を吸いながら肋骨から2cm程下の横隔膜を指先で押さえる
3. 息を吐く時は手を離す
4. これを4～5回繰り返す

＊斜角筋ストレッチ

1. 斜め45度上を見る
2. ストローを吸うように息を吸いながら斜角筋を指先で押さえる
3. 息を吐く時は手を離す



今年度は、本校で開催され、16校に参加していただき保健部年間テーマについて研究発表と学校医の先生方によるそれぞれの専門的な視点から貴重な講話をいただきました。

[実践・取組]

1. お弁当を通じてのキャッチボール 平成30年7月17日 (火)～7月19日 (木)
2. 生活リズムチェックシート 平成30年7月23日 (月)～7月27日 (金)
3. 健康を考えたこだわりのお弁当 平成30年7月17日 (火) 配布
8月21日 (火) 提出

本校開催にあたり、皆様の御協力ありがとうございました。



本校体育館

家庭での取組の啓発～アンケートの結果から～

Q 平均睡眠時間はどれくらいですか

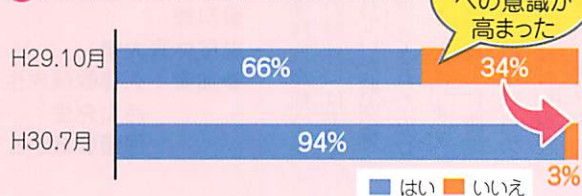


睡眠時間が
増えた

睡眠についてまとめ

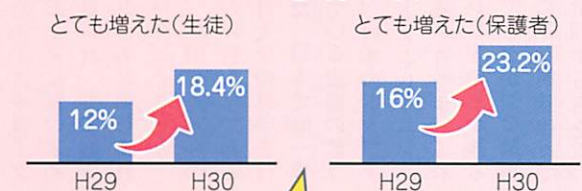
睡眠の大切さは十分理解され、アンケート結果からも改善がみられるが、依然として十分に取れていない生徒もいる。H29の生徒会保健委員会の調査では、「起床後の気分」について、「マイナスな気分」と答えた生徒が60.3%おり、量と質のバランスが大切であると感ずる。今後は、①就寝時刻や起床時刻の調査を続け、自分自身が必要な睡眠時間や睡眠パターンを知る。②「量」だけでなく「質」を高めるためのコツをつかむ。などの取組を続けていきたい。

Q アウトメディアに取り組みましたか



アウトメディア
への意識が
高まった

Q アウトメディアの取組で家族のコミュニケーションが増えましたか



「とても増えた」が増えている

アウトメディアについてまとめ

取組後は、家族とのコミュニケーションが増えたと感じる保護者・生徒が増えた。しかし、体調不良で保健室を訪れる生徒の中にはネットやSNSにより生活習慣が乱れている生徒もいることから、今後も、メディア接触の危険性やより良い使い方について、家族で取り組んでいける活動を進めていきたい。

お弁当メッセージ



3年生徒

母親

健康を考えたこだわりのお弁当



食についてまとめ

お弁当をつくってくれる家族への感謝を伝えること、支えてくださる家族の思いを知ることができた。お弁当レシピを紹介し合うことで、毎日のおかずにも悩む保護者へ情報交換にもなり、食に対する認識も広がった。

今後も教科等と連携し、感謝の心、社会性、食文化についての取組を行ってきたい。

[講話]

(内科) 東 洋一先生

睡眠の三大要素は「量・質・リズム」。効率よく生活し睡眠時間を増やす、夕食後のカフェインを控えて寝室の電気を暗くする、ディスプレイの使用を控えるとよい。

(耳鼻科) 森山 一郎先生

鼻呼吸と睡眠は大切で、鼻で呼吸をすると肺全体まで空気が入り、脳や副鼻腔を冷やすと言われる。脳の冷却は認知症の予防にもなる。脳は睡眠時に休息だけでなく、大脳の保守修復・情報処理記憶の固定・身体機能の回復など活発に活動する。

(歯科) 牧角 龍一先生

今の食事は噛みごたえのあるものが少ないので、もっと噛むことが大事。一口30回噛むことが必要。小中学生は健康な体を作る大事な時期なので噛み応えのある食事と1日1回家族で時間をかけて食事を摂ってほしい。

(眼科) 伊佐敷 誠先生

ゲームのし過ぎは大人も子どもも目が疲れる・目が乾くなどの症状がある。何より、他人とのコミュニケーション不足が子どもの精神的・知的発達に悪影響を与える。視力が落ちたら早めに眼科を受診する。

PTAセミナー H30.7.10(火)

「心を開く!『ほめ達』の魔法～その思い、届いていますか～」



講師：福元 直子先生

- ・一般社団法人日本ほめる達人協会 特別認定講師
- ・株式会社 Licht (リヒト) 代表取締役

「ほめ達」とは…ほめる達人＝「価値を発見」の達人

「ほめ達」の勉強をすることで、直接的にダメ出しをするのは準備のできていない相手に至近距離から速球を投げつけるようなものだと分かりました。このほめるコミュニケーションは親子の関係だけでなく、保護者同士や職場での人間関係に生かせるものです。

成長し続ける人には共通点があります。

- 自分が知っている話を聞くとときは「知っている」ではなく、自分は「できているか？」を考える。
- 自分が知らない話を聞くとときは「自分には関係ない」ではなく「自分ならどうするか？」を考える。
- 最強の思考停止ワード3つのD…「でも」、「だって」、「どうせ」を無意識に使うのをやめて「だからこそ」を使う。

ほめる達人とは、目の前の「人・もの・出来事」の価値を見つけ伝える達人のことです。ほめることによって相手を自分の思い通りにコントロールしようとすると本当の気持ちがあまく伝わりません。「自分と他人とは違う」ということを理解し、子どもに對しても「自分と違うことは間違い」としないよう心がけましょう。

- ほめ達の口癖とは「ほめ達3S+1」
ほめる時は「すごい」間違っているときはさらに

「さすが」 + 「そうくるか」 + 「惜しい!」
「すばらしい」

- 究極のほめ言葉
「ありがとう」(⇔対義語「当たり前」)
- 1秒でほめる
目が合って「ニコッ」と笑う
「ほめずにほめる」ことで相手の存在を認めていることを表現することができます。相手の存在を認めることが「愛」であり、「愛」の反対語は「無関心」である。
- 2秒でほめる
いつもの「おはよう」→「あ、おはよう」
「(何かしている手を止めて) おはよう」

子どもをほめる言葉を伝え続けていくことは親にしかできないことです。雨が降っていたら子どもに傘を与え、親も別の傘を持つことで、子どもは「何かあったら親は傘を捨てて守ってくれる」と安心するのです。

セミナー参加者の声

- ✿楽しいお話で私の中にも種を蒔いていただきました。
- ✿附属中保護者の聞く姿勢をほめていただき嬉しくなりました。子どもの気持ちがよく分かりました。
- ✿ほめすぎても良くないのでは?と思っておりましたが、不安が解消されました。

参加者：190名



朝食は、レストラン「TAKETEKU」で目にも美しい地元食材にこだわった料理をいただきました。参加者同士会話も弾み、和やかな時間を過ごすことができました。黒毛和牛の生産で有名な鹿屋ですが、現在では乳牛にも力を入れている

海上自衛隊鹿屋航空基地史料館の屋外には実際に使用されていた航空機、屋内には復元されたゼロ戦が展示されています。史料館には、海上自衛隊の歴史の他、特攻隊員の遺書や遺品、遂行記録などが展示され、ガイドの方の解説に思わず涙する参加者も多く見られました。いつの時代も子どもを思う親の気持ちは同じです。忘れてはならない悲しい歴史と現在の恵まれた幸せな時間を改めて考える、よい機会となりました。

うです。隣接する工房で作られたチーズやヨーグルトをお土産に買い求める姿も見られ、御家庭で土産話とともに楽しめたのではないのでしょうか。次に、全国でただ一つの国立の体育大学である鹿屋体育大学の見学を行いました。日本で唯一導入されている設備の数々があり、日本のトップアスリートもトレーニングに訪れるそうです。これまでテレビ等でしか観ることのできなかつた最新の設備にみな興味津々でした。全国から志をもって集まった学生の中から世界で活躍する選手が誕生することを期待せずにはいられませんでした。台風一過の秋晴れのもと、鹿屋の過去、現在、未来を感じられた有意義な一日でした。

PTA研修視察 H30.10.1(月)

- ・海上自衛隊鹿屋航空基地 史料館
 - ・鹿屋体育大学
- 参加者：久徳教頭先生
西山先生
保護者 32名



研修部

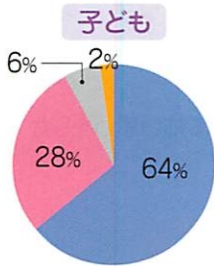
年間
テーマ

子どもの自立を支える家庭の在り方

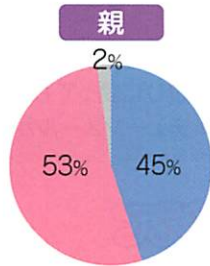
将来、自立した大人になるための基礎をつくる中学生時代。多感な中学生は、何を感じ何を求めているのでしょうか。また、私たち親が子どもの成長の支えになるためには、どのように接したらよいのでしょうか。アンケートでは、思春期の中学生と悩める保護者の生の声を聞いてみました。

アンケート実施日 平成30年10月下旬～11月上旬
 回答数(回答率) 生徒：518名(90%)
 保護者：463名(80%)
 御協力ありがとうございました。

Q (生徒) あなたが親に何か話をする時に、あなたの親は親の意思を伝えてくることがありますか？



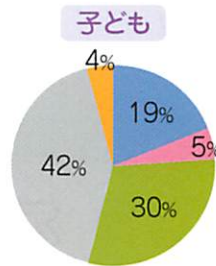
Q (保護者) 我が子の話を聞く時に親の意見を伝えることがありますか？



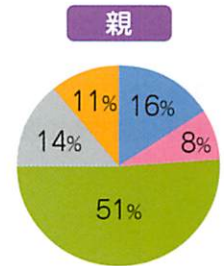
■ よくある ■ 時々ある ■ あまりない ■ まったくない

子どもの約6割はよくあると回答。それに対し親は約4割に止まっていることから多少、認識の違いがあるように考えられる。

Q (生徒) どのようなことに関して親の意見を聞きたいですか？



Q (保護者) 我が子は、どのようなことに関して親の意見を聞きたいと、あなたは考えますか？

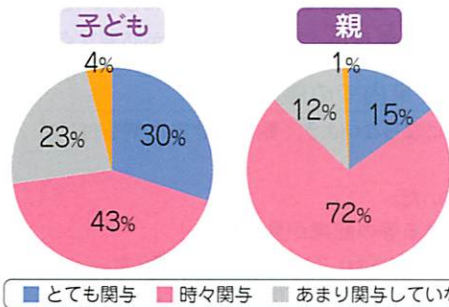


■ 勉強 ■ 遊び ■ 人生 ■ 特になし ■ その他

親の半数が人生について聞きたいであろうと思っているのに対し、子どもは特になしと答えている割合が高い。

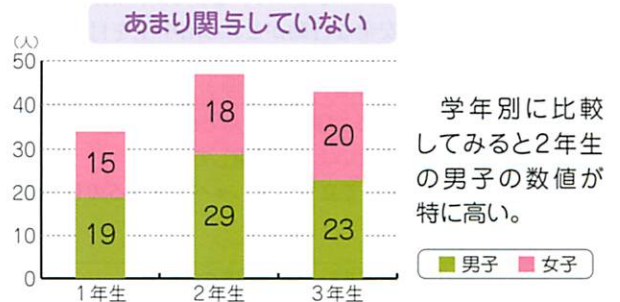
Q (生徒) 子どもが自己決定する際、あなたの親はどのくらい関与していると思いますか？

Q (保護者) 我が子が勉強や遊びなどの様々な場面で自己決定をする際、親としてその決定にどのくらい関与していますか？



親にとっては「時々関与している」つもりが、子どもにとっては「とても関与している」と受け取られているようだ。

■ とても関与 ■ 時々関与 ■ あまり関与していない ■ 全く関与していない



学年別に比較してみると2年生の男子の数値が特に高い。

■ 男子 ■ 女子

子どもの声

- 親が自分の間違いを認めない。
- 何でも正しいと思っている。
- 根拠のない先入観で怒られる。
- 自己決定権の侵害
- 親と意見が割れた時に引くべきか押すべきかを考える。
- 質問攻めされると困る。
- 自分の意見を伝えにくい。
- 何でも同じことを聞いてくる。
- 今と昔は違うと思う。
- 静かなプレッシャーはやめてほしい。
- 過去の事を掘り返してくる。
- 勉強しようとしていたら、「勉強しないの?」と言ってモチベーションを下げないでほしい。(応援してくれるのは嬉しいけど)
- 父親の話はよく分かるが母親の話は話が長く論点がずれていくので、分かりにくい。
- 素直に感謝の気持ちや本当の思いを伝えられない。
- 反抗期だからか親の全てがイライラする。
- どうやったら素直になれるのか分からない。
- 心配してくれるのは嬉しいけど思いを伝えられない。
- 仲良しだから大丈夫です。



アンケートを終えて

今回、アンケートを作成するにあたり鹿兒島大学教育学部副学部長有倉巳幸先生に御協力いただきました。子どもは親が思っているよりも自立したい・自立しようと思っていることに気付かされました。

思春期特有の反抗心を抱きつつも心では親を心配したり、気遣ってみたりと優しい一面も垣間見ることができました。

子どもたちの感じている不安や悩みの多くは、私たち大人がかつて経験し、乗り越えてきたことです。

おおらかに受け止めて、先回りせず子どもの話をじっくり聞き子ども自身が解決の糸口を見つけることができるよう、さりげなくアドバイスしたいものです。



保護者への質問

Q1 お子さまはSNSを利用していますか？

「はい」の回答は、1年保護者36%，2年保護者51%，3年保護者50%でした。保護者の回答と生徒の回答にやや違いがみられるようですが、お子さまのSNS利用状況を把握していच्छらないところはありせんか。

Q3 スマートフォンやSNSを利用できるツールを持たせ始めた理由は何ですか？

- 塾・稽古事の送迎
- 家族間の連絡
- 友人との連絡
- 本人の希望
- 防犯用
- 辞書がわり
- ネットに関する知識習得のため

Q2 スマートフォンやSNSを利用できるツールの使用方法について約束事がありますか？

- 使用時間を決める
- アプリ制限
- LINE禁止
- 登録は家族や必要な人のみ許可
- 家族がいるところで（リビングなど）使用する
- ロックをかけない、又はパスワードを共有
- 個人が特定できる写真などを載せない

Q4 SNSでお子さまがトラブルに巻き込まれたことがありますか？

- 友人の写真をアップしていた
- 遊びに誘ってもらえなかった
- チェーンメールが送られてきて怖い思いをした

アンケートを終えて

質問をピックアップしての報告となりましたが、いかが思われたでしょうか。SNSの使用に関しては、深刻なトラブルに巻き込まれたという事例もたくさんあります。しかし附中生は、節度ある利用をしているように思いました。今後も危険性を理解した上で、SNSの利点を生かしながら勉強や趣味に利用してほしいと思います。

第2回公共交通機関利用のマナー実態調査

調査期間：H30.9.11（火）～9.28（金）

子どもたちのマナー向上及び登下校時の安全対策の一環として、「公共交通機関マナー実態調査」を行いました。調査の結果、ほとんどの生徒はマナーを守っていましたが、前回と変わらず改善が必要な点も見られます。御家庭でも今一度話題にしていただき、周囲に配慮し安全な行動がとれる附中生を目指しましょう。

✳️ 良かった点 ⚠️ 改善が必要な点

電停（もしくは駅・バス停）での待つ様子

- ✳️ 広がりず前からつめて順番に並んでいた。
- ✳️ 荷物も邪魔にならないように配慮していた。
- ⚠️ 線路側に背を向けて立ち、おしゃべりするのは危ないと感じた。

乗車時、降車時の態度

- ✳️ 順番に乗降してスムーズだった。
- ✳️ 小学生を先に乗車させる姿があり、微笑ましかった。
- ✳️ 降車時に運転手の方にあいさつができていた。
- ⚠️ 降車時のあいさつができていない。
- ⚠️ 乗車口付近に固まって、乗車の妨げになっていた。

車内での態度

- ✳️ 他の乗客の邪魔にならないよう、鞆の置き方に気を付けていた。
- ✳️ 譲り合って立っていた。
- ✳️ 声をおとして会話する等の配慮が見られた。
- ⚠️ 大声ではないが、ざわざわしてうるさいと感じた。
- ⚠️ 立ちながら宿題をしたり本を読んだりして、危ないと感じた。
- ⚠️ 混み合ってきた時に、空いている場所に移動する気遣いが無い。

服装について

- ✳️ 乱れていることもなく、清潔感があり良かった。
- ⚠️ 組章を付けていない生徒がいた。

あいさつ運動

H30.8.26（日）

日曜参観日の登校時間帯に、校門付近であいさつ運動を実施しました。保護者の「おはようございます」の声に、元気にあいさつをする生徒たちが多く、清々しい朝の活動になりました。

保護者の感想

- ✳️ 身なりも整い、門礼もしっかりできていた。
- ⚠️ 駆け込みで登校する生徒は、あいさつが少なかった。



生活部

SNSに関するアンケート調査について

- アンケート実施日 平成30年7月
- 回答数(回答率) 生徒：556名(96%)
保護者：526名(91%)
- 御協力ありがとうございました。

スマートフォンやゲーム機などの電子機器を持ち始める年齢が早くなってきている現状で、附中生の状況と保護者の把握状況を調査しました。アンケートに御協力いただき、ありがとうございました。その結果のいくつかを取り上げました。



生徒への質問

Q1 メールやLINEなどのSNSができる端末を持っていますか？

持っている、又は家族のものを使用と回答したパーセントは、1年56%、2年69%、3年66%でした。1年生が若干少ない割合ですが、自分専用のものを持っている生徒が、2年生や3年生に比べると少ないことが関係しているように思います。



Q3 SNSで連絡を取り合う内容を教えてください。(複数回答可)



多かった回答は、勉強のこと・部活のこと・塾のこと・学校の連絡事項、それぞれ15～20%程度。あとは共通の話題が23～29%。

Q5 LINEやメールでトラブルになったことがありますか？(複数回答可)

「ない」という回答が一番多く、1年97%、2年95%、3年97%でした。その他の回答で、「友人の嫌がることをしてしまった」「内容を間違えて捉えられた」などがありました。



Q7 SNS利用の良い点を教えてください。



「遠くの人と連絡が取り合える」「必要な時にすぐ連絡が取れる」「気軽に使える」「連絡事項の確認」と、SNSの利点を十分に理解しているようです。

Q2 SNSで連絡を取り合う相手は誰ですか？(複数回答可)

「家族間」との回答が一番多かったのですが、友人と回答した割合は、1年34%、2年33%、3年37%、と学年であまり変わりありません。しかし先輩後輩との回答は、1年は5%、2年16%、3年18%、と学年が上がるにつれて、先輩後輩のつながりが強くなるようです。SNSだけの友人の割合が、1年1%、2年5%、3年4%と、僅かながらつながりがあるようです。



Q4 1日の平均的な使用時間を教えてください。

1時間未満の割合が一番多く、1年67%、2年58%、3年61%と半数以上でした。3～4時間未満は、1年と3年の割合がそれぞれ3%と5%に対し、2年の割合が11%と若干高いようです。

Q6 左記のトラブル以外でLINEやメールで嫌なことは何ですか？

「食事や睡眠時間が短くなる」「勉強に集中できない」「他のことができない」の選択を設定していましたが、それぞれ20～30%の回答の他に、「返事が面倒」「グループLINEが煩わしい」「通知がうるさい」「本心がわからない」などがありました。

Q8 SNSをどのように利用したら良いと思いますか？

「勉強の調べ物やわからない問題を尋ねる」「連絡手段・時間を決めて使う」「必要な時にしか使わない」との回答でした。



生徒会スタート

生徒会長になって
野添美衣奈

私はこの一年間、選挙で掲げたスローガンのとおり、「楽しさを追求。よりよさを創造」していきます。私が考える「楽しさ」は、一つ一つを全力で精一杯やりとげられる楽しさ、「よりよさ」は何気ない日常生活に一人一人が価値を見出しにくい姿を指しています。

このように私は外見だけでなく内面にも積極的にアプローチし、心の底から学校生活を楽しめる土台となるような生徒会を創ります。



オープンスクール

Aug 26 sun.

8月26日(日)鹿児島市内の小学生と保護者を対象に、オープンスクールを開催した。趣旨は、(1)本校をより身近なものとして理解し、将来の進路選択の一助とすること、(2)本校への理解を深めることによって、本校の教育活動をPRすることであった。当日は、700名を超える参加をいただいた。生徒会による学校紹介や合唱部による合唱が披露された。また、授業参観後、児童を対象に体験授業を開催した。その後の質問タイムでも児童の積極的な様子が見られ、多くの児童が中学校生活に期待する様子が伺えた。このオープンスクールが、地域の小学生に少しでも貢献できたのなら有難い。



生徒会本部役員

- | | |
|--------|------------|
| 生徒会長 | 野添美衣奈(二一三) |
| 副会長 | 三原 梨渚(二一四) |
| 書記長 | 田部 快太(二一二) |
| 副書記長 | 竹之内萌絵(二一四) |
| 企画委員長 | 並川 航大(二一二) |
| 副企画委員長 | 有水 美結(二一二) |
| 教養部長 | 山崎 晴人(二一四) |
| 德育部長 | 松林 憧子(二一二) |
| 保健体育部長 | 有村 琉星(二一三) |
| 情報部長 | 前田 煌生(二一五) |
| 顧問 | 川原 武敏 先生 |

先生の中学時代!
陰での努力

二年一組担任
塩入 俊郎

小学校まで野球少年だった私は、中学校でバレーボールに出会いました。当時、県で優勝するなどしていた先輩方の指導はとても厳しく、ボール拾い以外、ボールに触ることはできませんでした。そんな中、私がかけていたのは、人の見ていないところでの努力です。人よりも先に練習に行き、



二年一組担任
塩入 俊郎

休日でもトレーニングを欠かしませんでした。その甲斐あってか、最後の県総体では四位に入賞し、その年の鹿児島県選抜の一員として、大阪での全国大会に出場することができました。そのことは私の一番の思い出であり、誇りとなっています。バレーボールは私の宝物です。それは指導者となつた今でも変わることなく...



広報部 編集後記

前期と後期にわたり行われた多くの行事を様々な角度から取材しました。子どもたちの真剣な取組、熱い思いをできるだけお伝えしたいという思いで二年生部員が担当いたしました。今号でも「PTA NEWS」と題して、今年度のPTA活動を掲載いたしました。御家族の皆様とお読みいただければ幸いです。
(二年広報部)

輝く姿

10月7日(日)に行われた高円宮杯第70回全日本中学校英語弁論大会鹿児島県予選において、田上愛さん(3年5組)が1位に入賞し、鹿児島県代表として11月28~30日に東京で行われた中央大会に出場しました。「Time to Update our Values to Be Better Leaders」のタイトルのもと、鹿児島県代表の一人としてこれまでの練習の成果を発揮し、堂々とスピーチを行いました。



また、レセプションでは、高円宮妃をはじめ、皇太子妃殿下に拝謁することもでき貴重な経験となりました。

クローズUP 附中

日本学生協会(JNSA)基金 「英語キャンペーン」

8月1日(水)~8月3日(金)に、日本学生協会(JNSA)基金「英語キャンペーン」を開催。



「英語を好きになるきっかけを届ける」理念のもと、31名の学生の皆さんが4技能別の言語活動やキャリア教育講演会等を行い、英語の学びに向かう貴重な機会を得ました。開催にあたって、多数の保護者の皆様にご協力いただき本当にありがとうございました。

英語キャンペーン担当 主幹教諭 山内 誠